

事故を防ぐために

1 歯ブラシによる事故の危険性を十分に認識しましょう

自分で歯ブラシを持って歯みがきを始めることは、子どもの成長発育にとって大切なことです。歯ブラシはとがった部分がないため、危険性を認識しにくいものですが、深く刺さった場合には生命が脅かされる危険性もあります。保護者の方は事故の危険性を十分に認識してください。

2 歯みがき中は保護者がそばに付き添い、目を離さないようにしましょう

発育途上にある乳幼児は身体のバランスが悪く転倒しやすいため、歯みがき中は保護者の方が必ずそばに付き添って注意を払うことが大切です。

また、事故を防ぐために、以下のことにも注意しましょう。

- 歯ブラシを口にくわえたり手に持たせたまま歩き回らせない。
- 人や物など、周囲に障害物等がないことを確認する。
- いすや踏み台など、不安定な場所で歯みがきをさせない。



●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。



〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2013年5月発行

デザイン=独立行政法人国民生活センター商品テスト部

くらしの危険 Number 313

歯みがき中の乳幼児の事故

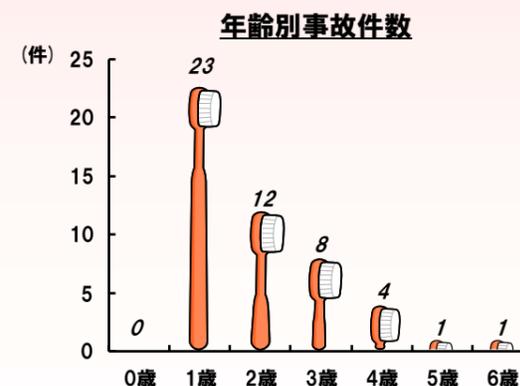
医療機関ネットワーク*には、乳幼児が、歯みがき中に転倒したり、人や物にぶつかったりしてけがをしたという事故情報が寄せられています。

歯ブラシはとがった部分がないため危険性を認識しにくいものですが、深く刺さった場合には重篤なけがを負うおそれがあります。



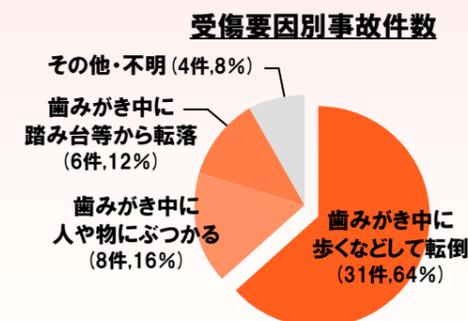
1歳児の事故が多い

医療機関ネットワーク*には、6歳以下の乳幼児が歯みがき中に受傷したという事故情報が2010年12月～2013年1月末までの約2年間で49件寄せられています。年齢別にみると、立って歩き回るようになる1歳児の事故が最も多くみられます。



最も多い受傷要因は歩行中の転倒

受傷要因別にみると、「歯みがき中に歩くなどして転倒」が約6割を占めていました。歯みがき中は「歩かせない、走らせない」ことが事故の未然防止に重要です。



*消費者庁と国民生活センターの共同事業であり、消費生活上の事故情報を参照医療機関から収集し、被害の未然防止・拡大防止に役立てることを目的としている。

こんな事故が起きています



ケース1

室内で歩きながら歯みがきをしていたところ、畳の部屋で前方に転倒した。歯ブラシは畳の上に放り出されていた。見たところブラシ全体に血液が付着していた。水を飲むことができなかった。右咽頭に裂傷ができていた。

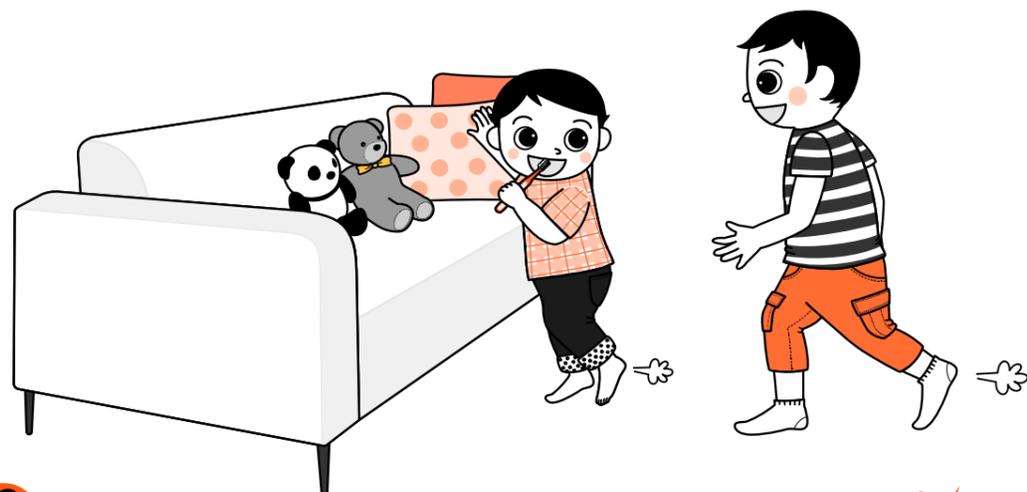
(事故発生年月：平成24年2月、2歳・男児・中等症)



ケース2

兄に追いかけて歯ブラシをくわえたまま走っていたところ、ソファにぶつかって歯ブラシが喉に刺さった。嘔吐し、鼻と口から出血した。右咽頭、口蓋垂の横に1cm程度の裂創ができていた。

(事故発生年月：平成24年11月、1歳・男児・中等症)



ケース3

洗面所で椅子（高さ50cm）の上に立って歯みがきしていたところ椅子から転落した。歯ブラシのヘッドの部分から3cmほどの所で2つに割れており、ヘッドの部分が口腔内に刺さっていた。歯ブラシを抜いたところ出血していたため、救急を要請した。左上の臼歯内側、軟口蓋近傍に裂傷があった。

(事故発生年月：平成23年6月、1歳・男児・軽症)



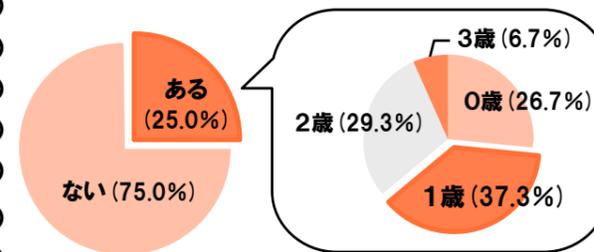
乳幼児の歯みがき習慣を調査しました

一人で歯みがきを行っている0～3歳の乳幼児を持つ保護者1200人を対象に、アンケート調査を行いました。

4人に1人は事故経験がある

4人に1人の乳幼児が歯ブラシによりケガをした、またはケガをしそうになった経験がありました。そのうち約4割は1歳児でした。

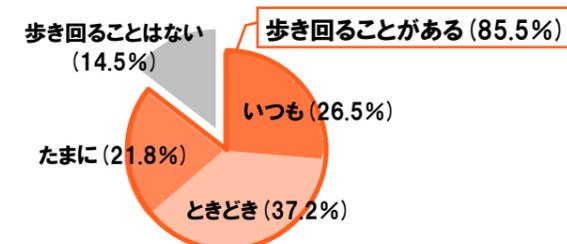
歯ブラシによる事故経験の有無



歯みがきしながら歩き回る乳幼児が8割

8割以上の乳幼児は、歯ブラシを口にくわえたり手に持ったまま歩きまわることがありました。

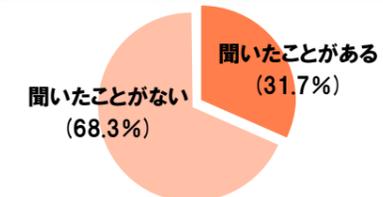
歯みがきをしながら歩き回ることもあるか



危険性が十分に認識されていない

口腔内に歯ブラシが突き刺さるという事故を聞いたことがある保護者は全体の3割であり、多くの人はこのような事故が発生していることを知りませんでした。

歯ブラシによる事故を聞いたことがあるか



歯ブラシによる事故の危険性

独立行政法人国立成育医療研究センター
感覚器・形態外科部 耳鼻咽喉科 医長 守本倫子先生

●意外に怖い歯ブラシによる外傷

事例の多くは、歯ブラシを口にくわえたまま兄弟とふざけあっていたり、椅子につまずいたりして転倒することが原因である。歯ブラシは先端がとがっているわけではないが、細長いために力が加わると意外に深く刺さるものである。咽頭に刺入した方向により、上方向では脳を、垂直～下方向では咽頭の深部組織に達し、そこから縦隔まで炎症が波及することもある。また、左右方向では頸動脈、静脈といった主要な血管を損傷し、大出血につながる可能性もある。

●幼児のはみがきは一人ではさせないで

乳幼児はまだ足腰がしっかりしていないことから、特に何もないところでも転倒しやすいので、はしや歯ブラシなどの細長いものを口にくわえたまま転倒して生じる口腔外傷には注意が必要である。

基本的に大人が常にそばにいること、何か口にくわえたままほかのことをさせないこと、さらに、万が一受傷した場合は児の状態をしばらく観察し、不安があれば直ちに病院を受診することなど、子どもを持つ親に周知させるべきであろう。